

社会構造の変化と受け入れ準備

これまでの認知症医療とこれからの認知症ケア

新型コロナウイルス感染症の流行によって、医療・介護・福祉がすぐに危機的な状況になることが明らかになってきました。衣・食・住から始まって生活にとつて大切な事は色々ありますが、その中で医療や介護福祉はどの位置付けられているのか。何を優先するのか、何を大切にするのか、それぞれの地域の住民の価値観によって異なると思います。そして、どのような医療・保健・介護・福祉が提供されることが地域社会の安心・安全を守る上で必要なか検討する場が必要だと思えます。

あけましておめでとござい  
ます。本年もよろしくお願  
いいたします。

社会的孤立が健康リスクにも  
なると考えられます。

例年であれば、お正月には  
実家へ帰省したり、親戚が集  
まったりする方も多いと思い  
ますが、今年は新型コロナウイルスの  
影響で、同居家族以外の接触  
を避けなければいけない事態  
となつてしまい、大変残念に  
思います。特に高齢者の場合  
は、同居以外の他者との交流  
が週1回未満は1・3〜1・  
4倍要介護や認知症に、月1  
回未満では1・4倍早期死亡  
に至りやすい(斉藤雅茂ら、  
日本公衆衛生雑誌62(3)・95-  
105/2015) の研究もあつて、

東川町の2015年の高齢  
化率は32・1%と、全国平均  
(26・6%) よりも高く、2  
045年までに43・3%に達  
し、およそ10人に4人が高  
齢者になると見込まれます。  
日本医師会の地域医療情報シ  
ステムによれば、2015年  
の医療介護需要を100とし  
た今後の医療介護需要の必要  
量は、2020年には少し増  
え104となり、2025年  
から2030年に106でピ  
ークを迎え、2035年には  
104に減少に転じ、204  
5年には99にまで減つていく

と予測されています。一方介  
護需要は、2020年より1  
11、2025年には126  
と急激に上昇し、2030年  
には132でピークを迎え、  
その後も2045年まで12  
0台を維持し続けます。現在  
の東川町の介護需要を鑑みる  
と、高齢者は増加し、要介護  
者も増えていく傾向がありま  
す。介護サービスが必要だけ  
ど、町内に提供できる介護サ  
ービスが足りず、近隣市町の  
介護福祉サービスを利用せざ  
るを得ないケースや、在宅で  
の介護をあきらめて施設入所  
を選択せざるを得ないケース  
も出てきている状況と思われ

ます。今後必要な介護需要を  
予測し、どのような介護福祉  
サービスを充実させれば、安  
心してこの町で最期まで過ご  
せるのか、行政や住民が一緒  
に考え議論する場が必要と思  
われます。

認知症ケアには時間と労力が  
必要

私の父方の祖母も、母方の  
祖母も認知症でした。母方の  
祖母は、一時私の実家で同居  
していましたが、昔のことを  
何度も何度も繰り返して話し、  
食事をしたことも忘れて何度  
も食事を要求し、常に介護が  
必要な状況でした。雪かきが  
大好きで雪が降ると喜んで除  
雪をしていましたが、サンダ  
ルで外へ出て転倒して骨折。  
ギプスをして自宅療養中に、  
骨折していることを忘れて再  
度雪かきに出てしまい、また  
転倒して両足骨折となり入院  
その後、療養型医療機関に転  
院しそのまま最期を迎えまし  
た。当時は介護保険も始まっ  
たばかりで、介護事業そのも  
のが手探り状態で、在宅ケア  
を持続できるだけのサービス

も十分ではありませんでした。  
まだ研修医だった私は、認知  
症の最期はそういうものだと  
思っておりましたが、現在で  
は、訪問介護や通所介護など  
のサービスがあり、住み慣れ  
た自宅でできるだけ長く生活  
できるような体制が整いつつ  
あります。認知症は、「脳の  
記憶や言語、知覚、思考など  
の認知を司る部分の機能の低  
下が起こり、日常生活に支障  
をきたすようになった状態」  
です。自分のことが自分でで  
きなくなることに加え、暴言  
や暴力、興奮、うつ状態、不  
眠、昼夜逆転、幻覚、妄想、  
徘徊、尿便失禁などの周辺症  
状と呼ばれる問題が出現する  
ことがあり、生活や介護に負  
担が生じます。しかし、住み  
慣れた自宅や安心できる環境  
を整えることで、問題を未然  
に防いだり、安定して過ごせ  
るようになることもわかって  
きました。認知症を治療する  
薬はまだありません。現在処  
方が可能なのは症状の進行を  
遅らせる薬だけです。認知症  
に必要なのは、医療ではなく  
介護やケアなのです。